

ネットで変わる シニアライフ

ネットがシニアを輝かせ、
家族の絆を再生させる

ネット上で“つぶやき”をシェアし合うサイトとして昨年より大ブレイクしている「ツイッター」。そのツイッター上で、今、5,000人以上のフォロアー(ファン)を抱えるカリスマシニア(70代・日本女性)が誕生していると聞いたら、あなたは驚くのではないだろうか?

彼女が、ニュース番組を見ながら、たとえば「今、テレビで年金問題を取り上げている、私はそれについてこう思う」といったツイート(つぶやき)を行うと、多くのフォロアー達が反応して一斉に返信の書き込みをする。中には、彼女がつぶやいた瞬間にテレビのスイッチを入れ、番組を見始める視聴者もいる。ここでは、リアルタイム・ウェブの空間から既存マスメディアへと回帰する「オーディエンスの逆輸入現象」が起こっている。新しいメディア環境の出現である。

デジタルシニア・ラボが過去に行ってきたグループインタビュー調査では、他にもネットを縦横無尽に使いこなしたアクティブなシニアライフを楽しむ人々(「デジタルシニア」と命名)のさまざまな実態が詳細に把握されている。

たとえば、あるシニア男性(60代)は、勤めていた会社を定年退職した後“おやじバンド”での活動を開始、今では自分のバンドがライブハウスで演奏している映像をYouTubeにアップロードして発信している。動画データの専門的な処理も朝飯前にこなす。インタビュー調査会場へはジーンズに革ジャン姿で現れ、iPhoneで忙しく情報検索をする彼は、シニアと呼ぶのは不自然に感じられるほど若々しく、エネルギーに満ち溢れている。

昨今は、家族間のコミュニケーションや絆が希薄になってきていると言われる。確かにひとつの真実であろう。しかし、あるシニア女性は「別々に暮らす子供達の動静をブログで毎日チェックしているので、心理的な距離は感じません」と語る。彼女はまた、自分自身の近況もブログで日々発信しており、「ブログに

よって、今でも自分が無事生きていますヨ、という生存証明になっているんです!」と冗談まじりに笑う。

ネットの誕生が、失われつつある家族の絆を維持し再生させている。これは、親子間の話に限ったことではない。遠くに孫を持つあるシニア女性は、「IP電話のスカイプを利用して、普段なかなか会えない孫と“しり取り”をして遊んでいます」とのことであった。

「デジタルシニア」の 特性

定量調査で明らかとなった
デジタルシニアと非デジタルシニアの差異

電通と東大が共同で実施した「日本人の情報行動全国調査」からの分析結果を示す〔表参照〕。

60代でネットを同年代の平均以上利用する人(ヘビーユーザー)では、それ以外の人(ライトユーザー+ノンユーザー)に比べ、時事や流行情報についていち早く知りたいと考

電通

メディア
インサイト
メモ

05

『デジタルシニア™』の誕生 ～“ネット・ヘビー”なシニア層の知られざる実態!

ネットやデジタルイノベーションによって急速に変貌しつつあるのは若者だけの話ではなかった!
今回は、電通メディアイノベーション研究部と
東京大学大学院情報学環の橋元良明教授との産学共同プロジェクト
「DENTSUデジタルシニア・ラボ」の研究から明らかとなった、
新しいシニア層の実態について報告する。

文●長尾嘉英

Nagao Yoshihide

MCプランニング局メディアイノベーション研究部メディア・リサーチ・スーパーバイザー

える人の割合が多い。こと「政治がらみの情報への興味」に至っては25%もの大差で、前者の方が「関心有り」者の割合が高い。ネット・ヘビーなデジタルシニア層とそれ以外の非デジタルシニア層の間のこのようなスコア差は、統計学的にも有意な差が認められると東大の橋元教授は分析されている。

また、デジタルシニアは非デジタルシニアに比して「変化のある生活」への欲求が強く、「情報を自分から周囲へ発信してゆく」傾向が高い(同様に統計的有意)。このことは、シニア発の情報伝播モデルが今後拡大してゆ

くことを予感させる。

以上のような定量・定性調査の結果から、シニア層の活力に満ちたライフスタイルとネットでの情報行動が強く関連していることが判明したのである。

かのユング(スイスの心理学者)は、「成功と自己実現の可能性は、人生の後半に存在する」と発言していたそうである。それくらい重要な「シニア期」をテーマとして研究するジェロントロジー(老年学)においては、「サクセス

フル・エイジング(成功加齢)」という概念がある。そして、成功加齢に必要な3要素として、健康の維持、知力・体力の維持、そして「人生における熱心な活動への参画」が挙げられている。デジタルシニア達にとって、ネットはまさに「熱心な活動」に従事する重要なツールであると言える。

今後ますます増加していくことが推測されるデジタルシニアについては、オーディエンス・インサイトの視点とともに、サクセスフル・エイジングの観点からも継続して研究していく必要がある。

[表] デジタルシニアと非デジタルシニアの差異

